

なる程、確かにこういう
シチュエーションも、燃えますね

(白いカスがついてる……)

男が私に、ギンギンに勃起したペニスを
突き付けてきた。見るからに汚れている。

(これを……
舐めるの……?)

やっぱりホテルが空くのを待つべきだった。
遅すぎる後悔。でももう、
1万5千円は受け取ってしまったている。

はまき
(お金は、
返したくない……)

なら、やるしかない。

はむ、んっ、んぐ、んら
んららららーっ！

凄まじい臭気が鼻に抜ける。
便器を直接舐めたような味が、
口一杯に広がった。

(臭い……っ、臭い臭い臭い……っ
普通……こんな汚いままにしとく……?)

割り切ったお付き合いを狙って
テレクラに来るのなら、
先ず風呂に入るべきだ。

(だからテレクラは嫌い……。
ロクな人間がいないっ)

こんな汚い亀頭に、舌を這わせたくない。
吸うなんて論外。恥垢を飲み込んでしまう。

汚チンポ相手に出来ることは限られている。先端——尿道口を舐めるぐらいだ。

れろ、ちやる……
ちやぶ、ちや、れろお……

（うう、先っぽは先っぽでしよっばい……）

これは尿の味だろうか。先週末の変態中年と、同族になってしまった様な絶望感に襲われる。

（それでも、恥垢よりはマシ……）

そう思っていると突然、男の手が私の後頭部を掴んだ。

はあッ
んあッ

んぐろろろッ！
んぐろろろッ！

あ、か、か……っ、かっ、
んぐろっ、くはあッ……！

私の頭を手前に引き寄せる。
それから腰を、私の唇に叩きつけてきた。

おわっ！
おわっ！
おわっ！
おわっ！

んぐろ

んーッ

んむろろろッ！
んむろろろッ！
んむろろろッ！

恥垢塗れの陰茎で、口の中をかき回す。
歯に陰茎が当たる。しかし男は
それを気にする様子も無く、腰を動かし続ける。

私の歯が、男の恥垢を削いでいく。
削がれた恥垢が、
歯の隙間に落ち込んでいった。

ひぐ

あッ

んぐろろろッ！
んぐろろろッ！
んぐろろろッ！

吐瀉感を誘発するといんでもない匂いが、
口の中を駆け回る。

—びゆるっ！びゆくうっ！びゆくうっ！
熱くて不快な固まりが、喉の奥で弾けた。
いつそ胃の中に落ちてくれればいいのに、落ちてくれない。
精液は異物として、私の喉に止まり続けた。

んぐんぐん……っ！
んんんん……っ！
んぐんぐん……っ！
んんんん……っ！
んぐんぐん……っ！
んんんん……っ！
んぐんぐん……っ！
んんんん……っ！

(気持ち、悪いいらっ……)

おわ……わほ、代ほ……っ！
おわ……わほ、代ほ……っ！
おわ……わほ、代ほ……っ！

私の悶絶と嗚咽に刺激され、
男のペニスがまた震えた。

びゅんびゅん

びゅんびゅん

んぐんぐん

びゅんびゅん

びゅんびゅん

おわ……わほ、代ほ……っ！

おわ……わほ、代ほ……っ！

んん

んん

おわ……わほ、代ほ……っ！

……うん……

ぐちょっ
ぐちょっ
ちゅっ

せわ、ちゅ……っ！
あが、あが……っ！

ああ、いい……
良いですよお

射精の恍惚からか、
男の手が少し緩んだ。

ここしかないと、
私は思い切り頭を揺らす。

ちゅっ

は……っ
はあ……っ

は……っ
は……っ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ぶるッ
びくッ
びくッ
う

ふあ、はあ、はあ……っ、
ぐえ、げほ、げほっ、
ふあ、ああ、ああ……っ
あああ ああああ……

ようやく、ペニスを吐き出すことが出来た。
開いた口はなかなか閉じてくれない。
下顎が、プルプルと震えている。

はあ、はあ……っ、
はひ、ひああ……

吐き出す息は、やはり臭気に塗れていた。
胃液と精液と、恥垢に唾液の混ざった匂い。
最早生ゴミとしか、形容しようの無い。
それが、私の吐息として放たれている。

(最、悪……)

はあ……
はあああ……

あああ
あああ
あああ

げっ
げっ
げっ

びゅっ……

男がニユルニユルのペニスを額に擦りつけてくる。

私にはもう、それを跳ね除ける気力も残っていないなかった。

もういいや……
顔は後で洗えばいいし……

男は飽きる様子も無く、いつまでも私の額に、ペニスを擦りつけていた。

(ああでも髪の毛……
精液がつかいたら、なかなか落ちないのに……)

はひっ
あふっ

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

はあ

んあああ

はあっ
んああ

んっっ…

んっっ…

んああ
んああ
んああ